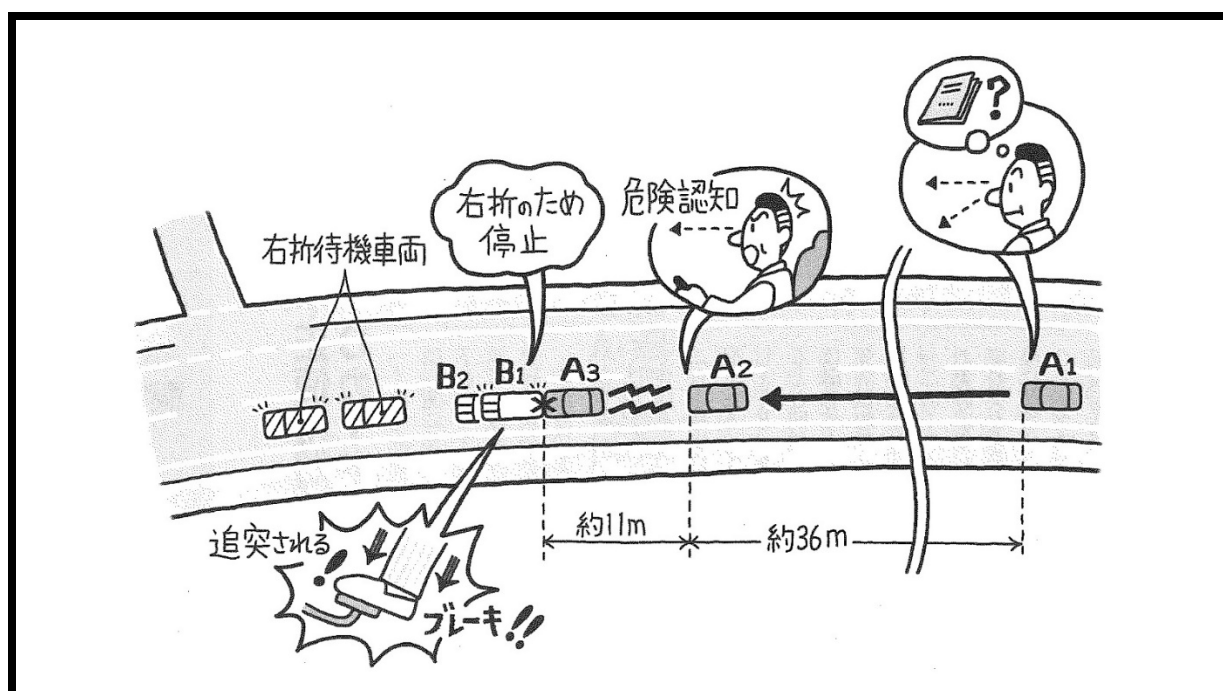


■事故の概況



事故類型：追突

発生日時：月曜日 朝8時頃

当事者A：普通乗用車 50歳代 男性

当事者B：普通乗用車 30歳代 男性

■ 事故の概要

Aは、往復2車線で制限時速40kmの県道を、先行する数台の車がずっと時速40kmを守って走行しているのを「遅いなあ」と、いらいらしながら走行していました。ふと、胸ポケットに入れておいたはずの手帳がないことに気づき、前方とダッシュボードの中を交互に見、手帳を探しながら運転を続けました。

一方、A車の前を走行していたBは前方の信号機のない丁字路交差点を右折しようとし、先行する2台も右折目的で停止したので続いて停止しました。

Aは、ふと前を見るとB車が停止しているのに気づき、急ブレーキを踏みましたが間に合わずに衝突してしまいました。

■ 事故から学ぶ

事故の原因は、Aの脇見運転による前方不注意です。時速40kmで等速進行していたことで、ちょっとした脇見では問題は起きないだろうという安易な考え方をしてしまいました。

前方の車両は、右折の為に停止や他の車両や人を避けるための減速など様々な理由で動静の変化を起こします。1～2秒くらいなら前を見なくても大丈夫だろうと思いがちですが時速40kmで走行している場合、1秒間に11.1mも進むことになります。危険に気づいても、そこから停止するまでにさらに20m程度必要です。2秒間では合計40～45mの距離が必要となります。2秒間というわずかな脇見の時間と思いがちですが、とても危険な行為です。脇見運転は絶対にしてはいけません。